

D 国語問題

注意

- 一 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
- 二 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっていきます。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。
(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
- 三 この問題冊子は16ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号は1〜3となっています。
- 四 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
- 五 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
- 六 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
- 七 この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

- 一 マークは、左記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
- 二 一つのマーク欄には一つしかマークしてはいけません。
- 三 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しすぎはきれいに取り除いてください。

マーク例

①
○ 1
○ 2
● 3
○ 4
○ 5

(3と解答する場合)

一 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

一般的に、近代保守思想の源流とみなされている思想家がイギリスの政治家エドモンド・バーク(一七二九～九七)である。彼が同時代に隣国で起こったフランス革命を批判して書いた『フランス革命についての省察』は、現在に至るまで保守思想の原点を示す文献として、世界中で読み継がれている。

ここで注意しなければならないのは、人間が普遍的に共有する「保守的な心性」と「バーク以降の保守思想」は、明確に区別すべきものであるという点である。

人間は環境が一気に変化することを恐れる「保守的な心性」を共有している。隣に全く知らない人が引っ越してくると、どうしても初めは警戒心をもって接することが多くなり、また自分が新しい土地に移り住む時には、多少の不安と緊張感を抱く。

人間はこのような「保守的な心性」をどの時代でも共有してきたし、これからも共有し続けるだろう。しかし、ここで議論する保守思想は、人間の普遍的な「心性」とどまるものではない。バークがはっきりと主張するように、保守思想とは一八世紀ヨーロッパにおける啓蒙主義に対するアンチテーゼ(否定的な判断や命題)として生まれたものであり、近代主義者が依拠する理性的合理主義への批判こそが、核の部分を構成しているのである。

保守思想の根本は、「理性万能主義への懐疑」である。近代主義者が、人間の理性を過信し合理的に理想社会を構築することが可能だと考えがちなのに対し、保守は人間の能力の限界を謙虚に受け止め、その不完全性を直視する。つまり、懐疑主義的な人間観を保守は共有する。

人間はどうしても「悪」を捨てることができない。どの時代の誰もがエゴイズムを抱え込み、時にケイソツを免れない。^(a) 驕りや嫉妬、妬みなどから完全に自由になることなどできず、人間はさまざまな問題を抱え続けて生きていく存在だ。

そんな不完全な人間が構成する社会は、必然的に不完全な存在であり続け、永遠に理想形態にたどり着くこと

はない。これが保守の人間観だ。毎日、世界中で問題が起こり、日々その対応に追われ続ける。新聞が白紙になる日など永遠にやって来ず、テレビのニュース番組でアナウンサーが「今日¹⁾は一日、何も無い平穏な日でした」と言うことなど起こりえない。

保守は、そんな人間社会の完成不可能性を静かに受け止めた上で、理性によってパーフェクトな社会が出来上がるという楽観的な進歩主義を根本的に疑う。だから、保守は人間の理性に全面的に依拠するよりも、長年の歴史の中で蓄積されてきた社会的経験知や良識、伝統といった「人智を超えたもの」を重視する。歴史の風雪に耐え、多くの人の経験が凝縮された社会秩序に含まれる潜在的英知を大切にしようとする。

この立場は、「過去に戻ればすべてうまくいく」といったような「復古」でもなく、「今のまま、何も変えなくてもよい」という「反動」でもない。なぜなら、人間が普遍的に不完全である以上、過去の社会も不完全であり、また現在の社会も不完全であるからである。

また、やっかいなことに、社会状況は時間と共に変化していく。例えば、医学の技術革新や食料品の充実などによって人々の平均寿命は長くなり、少子高齢化というかつての社会では考えられなかったような人口構成の変化が生じている。当然、我々はこれまでの制度では変化に対応することができない。新たに生まれた状況に対応した制度に変更していかなければ、社会が破綻¹⁾してしまう。

保守は、一部の伝統主義者のように過去を単純に理想化する立場でも、一切の制度改革を拒絶する立場でもない。「革命」のような極端な改造とは距離を置くものの、時代の変化に応じた漸進的改革には積極的に取り組もうとするのだ。パークの言葉を借りれば、保守思想家は「保守するための改革」を重視する存在である。「大切なものを守るためには、時代に応じて変わっていかねばならない」という、冷静で思慮深い見方を共有するのが保守の立場である。

保守は極端な「大きな政府」を嫌う。なんでもかんでも国家が統制的に社会をコントロールし、それによって理想的な社会を作り上げようとする態度には、特定のエリートの理性を無謬¹⁾のものと捉える思い上がりがある。

いると保守は考える。

一方で、保守は極端な「小さな政府」も嫌う。国家が再分配機能を著しく低下させ、すべてを市場の論理に任せてしまうと極端な格差社会が生じてしまい、安定した秩序維持が困難になると考える。

だから保守は、本質的にバランス感覚を重視する。国家にしろ、市場にしろ、エリートにしろ、大衆にしろ、すべては不完全な存在であり、「これにさえ依拠していれば完成された社会が出来上がる」というものなどは存在しない。だから、複雑に入り組んだ社会の中で、さまざまな主体がバランスを取りながら、着実に合意形成をしていくプロセスを重視する。

そのため保守は時代状況に応じて政府の適正規模を見極め、多様な主体のバランスを取りながら政治を運営していくべきだと考える。そして、そのバランス感覚を、歴史的蓄積によって得てきた教訓や経験知によって獲得しようとする。

保守は「小さな政府か大きな政府か」といった単純な二分法そのものを疑う。保守は極めて平凡ながらも「中くらいの政府」を目指す。

この態度は、保守が「極端なもの」を嫌う(1) シュウセイ(2)に基づいているといえよう。「抜本的に改革すればすべてがうまくいく」式の「極端」な議論の中には、「正しい理性的判断によって社会を理想的なものに変革できる」という過信と妄想が必ず入り込んでいる。すべての問題を一気に解決する「魔法」など存在しないのだ。

私たちは特定の時代に、特定の環境の中で育ち、特定の言語を母語として身につけ、特定の人々のコミュニティの中で生きていく。人間は一人で生きていくことはできない。具体的な人間交際を通じて合意形成をし、自らの役割を認識することを通じて、アイデンティティを獲得している。そのため、保守は自らの行動を□にこそ、重要な意味を見いだし、その社会関係を大切にしている。社会の中で孤立し、生きる意味を見失いそうになっている人がいれば、社会の中に温かく迎え入れ、互いの信頼関係を(3) ショウセイ(4)していく。できる限り排除の伴わないコミュニティの構築に努め、安定した社会秩序の形成を目指す。

このような保守思想は、決して極端な「タカ派」的主張に還元されるものではない。人間の能力の限界を謙虚に受け止め、歴史的な経験知を大切にす。極端な変革ではなく、人々が信頼しあいながら安定的に生きることのできる環境を整えていく。そんな穏健な立場こそが、保守の神髄である。

(中島岳志「保守って何」による)

問

- (A) 線部(イ)～(ハ)を漢字に改めよ。(ただし、楷書がいにしよで記すこと)
- (B) 線部(a)～(c)の読みを、平仮名・現代仮名遣いで記せ。
- (C) 線部(1)について。ここに象徴されている筆者の人間や社会に対する見方として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。
- 1 フランス革命のような争乱は必ず起こり、それをとおして進化するのが人間社会というものだ。
 - 2 人間の社会的経験や良識は歴史の中でたえず変化しているが、変化しない潜在的英知もある。
 - 3 今のまま何もしなくても良いという考え方は、人間として怠慢だという非難を免れない。
 - 4 さまざまな主体のバランスをとることが必要なのだが、それは実際には人間にとつて不可能だ。
 - 5 人間は不完全であるがゆえに、いろいろな問題が生じるという現実を直視しなければならぬ。
- (D) 線部(2)について。これと同じ内容を表している言葉を、本文中から抜き出し、六字以内で記せ。ただし、句読点は含まない。
- (E) 空欄□にはどんな言葉を補ったらいいか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。
- 1 肯定するもの
 - 2 縛るもの
 - 3 限定するもの
 - 4 支配するもの
 - 5 導くもの

(F) 筆者の主張する「保守思想」と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 楽観的な進歩主義

ロ 理想社会を実現しようとする運動

ハ 賢明な政府による統治

ニ 排除のないコミュニティーの形成

ホ 懐疑主義的な人間観

(G) 左記各項のうち、本文に述べられている趣旨と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 人間はどうしても「悪」を捨てきれずにエゴイズムの側面を有している。このような人間性が社会問題を引き起こすということを実感してこそ、理想的な社会に近づくことができるのだ。

ロ 近代主義者は人間の理性を信じて理想社会を実現しようとするが、そもそも不完全性を持つ人間にそのようなことを考えること自体が無理なのである。

ハ 人間は知らない人と接するとき少なからず不安感を持つ。そのような人間の本性と近代の保守思想とは根の深いところで関連していることを忘れてはならない。

ニ 保守は時代が変わったとしても、人間にとって大切なものを守るという精神である。だからこそ、時代の変化に応じて社会制度を変革しようとする思想なのである。

ホ 「小さな政府」になると国家が再分配機能を低下させ、市場の論理が強まり、格差社会になってしまう。そこから生じる社会の不安定化を阻止することが保守の立場でなければならぬ。

ヘ 人間はコミュニティーの中で生きており、他者とのコミュニケーションをとおして自分の役割を認識している。人間の相互信頼こそが社会秩序の安定につながるのだ。

二 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

言葉の最小単位は単語です。その単語が組み合わさって、文章や会話を作ります。主語、述語、目的語、形容詞、副詞などによって、伝えるべきことが特定されています。映画、映像表現の最小単位は、一つひとつのショットですが、主語がどこにあつて、目的語はどれか、形容詞はどれかと探しても見つかりません。言葉はこういうものを花といい、ああいうものを川というように、ものの呼び名や状態をただ慣習的に言い表しているだけのものですから、実体ではありません。どこのなんの花でそれがどのように咲いているのかと詳しくジョジョユツしていかなければ、その花は特定されません。

見てきたような嘘をいい、という言い方がありますが、これはその人のいつている嘘がいかにも微に入り細にわたっているのです、まるで見てきたようだというのでしょうか。そこまで細かく描写するには、ふつうは見えないことには無理だという思いもあるでしょう。このように言葉は、描写によって概念を細分化し、具体に向かつていきます。

一方、映像は花の を写しません。具体的で、他とは置き換え不可能な、ただ一つの花を写します。花の名前をドウテイすることも必要とされません。そこにあるという直接性だけが伝えられます。

これは映像というものが本来もっている機械的、物質的な性格です。対象に光が当たり、その反射がレンズを通して集められ、フィルムの乳剤に感光する、あるいはそのキド、色合いが電気信号に変えられてCCDに記録される。いずれにしても映像は実在そのものではありませんが、物理的な遠近法によって、実像と対称的な関係をつなぐにいます。映像では、それがどのように撮られているかということ、それ自体が描写にあたるわけですから、形容詞はどこにあるか、副詞はどれかと探しても分割できません。映像はいつも一つの全体、有機的な全体として、その空間、時間が提示されています。

文章になぞらえて、映像の主語を探しても見つかりません。劇映画でいえば、主語は主人公でしょうか。どう

考えてもそのようにはなっていない。複数の人物がいれば、それぞれの人物が「私は」と喋るしゃべるでしょうし、喋らなければ主語ができないのであれば、そもそもサイレント映画というものはありませんでした。人物のいない画面もたくさんあります。私たちはその人物が喋っていることを「含めて」その人物を見ているのです。もっといえばフレームです。フレームによって切り取られた画面を見えています。

映像は実像の反映ではあるけれど、それは実像の全体ではなく、つねにその一部分でしかありません。これはよくあることですが、初めてムービーのカメラをもった人は、やたらとカメラを振り回します。デジタルのハンディ・カメラの場合でもそうでしょう。肉眼と比べてレンズはあまりにも視野が狭いために不安になるのです。頭でわかっているけれども、いつものように目を動かし首をまわすつもりで、カメラを動かします。それほどまでに、切り取られた画面は狭いのです。しかし私たちは、その狭い世界を映画(2)的な現実として了解しています。

画面のフレームはサイズとアングル（カメラの位置や角度）で決定されます。だとすればそれを決めているものが、主語ということになるでしょうか。カメラマンでしょうか、監督でしょうか。どちらであれ、これもしつくりしません。

確かに、撮影の現場がうまくいっているときには、カメラをこれ以上もう一ミリとて右にも左にも動かさない、そう思うことがあります。しかしそう思えたときであっても、そのときの映像の主語、語っている主体を自分だとは考えません。なによりもそこに撮ろうとする「場」があり、私もまた、そこで見ているだけだというのが、いつわらざる実感です。自分がこのように見せているのだ、と思ったことは一度もありませんし、そこで撮った一つのカットを「よし」としたとしても、その「よし」は、その時点ではまだ宙空に浮いたままで、定まってはいません。その次にどんなショットがくるかによっても、よしあしが変わってしまうからです。こうしたことは映画が完成するまで、さまざまな局面で際限なく続いていきます。

いくつかのショットが集まって一つのシーンを作ります。同一の場所で同一の時間であること、これがシーンというくりです。そのシーンがいくつか集まって、今度はシークウエンスを作ります。ひと連なりの話の流れ

といったものでしょうか。そのシークエンスが積み重なって、物語になると考えられます。これらの一つひとつは、相互に影響しあっています。映画は、時間の表現でもあるからです。

映像の主語は隠されている、そういうべきでしょうか。それともたくさん主語があるというべきでしょうか。どちらもそのような気がしますが、主語、述語といった構文設定が映像には成り立たない、そういった方がいいのかもしれませんが。

美学者の中井正一が「カットの文法」という文章の中でこのような主旨のことを書いています。

「小説には『…である』『…でない』という作者の肯定、あるいは否定の繫辞けいじがある。ところが映画のカットとカットは『…である』『…でない』というこの繫辞がないままに繋がっていて、それがそのまま大衆の中に放り出されている。カットとカットを繋ぐものは大衆の心である」

一九五〇年に書かれた文章です。今から見るとナイーブに過ぎると思われるかもしれませんが、映画の特徴を見事にとらえている、すぐれて詩的な表現だと思います。カットとカットの間には隙間があるので。ここでは言葉と言葉は、直接に繋がっていません。

ある人物があることを喋ります。しかし映像はそれですぐ次のカットに切り替わるわけではありません。必ずなんらかの間があります。次のカットも人物が示されてすぐにセリフをいうわけではありません。それは何分の一秒かもしれないし、何秒間ということもあるでしょう。言葉と言葉のやりとりを論理で繋つなごうとすれば、ここでの間は余分です。^③ わかりにくい隙間だといつてもいいでしょう。

もっと大事なことがあります。私たちが遠くにあるものを近くで見ようとすれば、自分の足でそこまで歩いていかなければなりません。その間その人は、なにかを考え、なにかを感じていたはずです。映像は遠くから見たものとしてのロング・ショットから、それをより近くで見たクローズ・アップへと一瞬にして切り替わります。あるいはものをその反対側から見ようとすれば、私たちはそのぐるりを回っていかなければなりません。でも映像は雄大な山の頂さえ、その反対側から見せてもくれます。

ここで省略されたものは、そのために要する時間だけではありません。⁽⁴⁾ その間の私たちのモノローグ、沈黙し
たまま語られることのない私たちの思いも、省かれていますのです。

(小栗康平『映画を見る眼』による)

問

- (A) 〓 線部(イ)を漢字に改めよ。(ただし、楷書^{かいしよ}で記すこと)
- (B) 〓 線部(1)について。この内容を具体的に表している一文を本文中から探し出し、初めの三字を記せ。た
だし、句読点は含まない。
- (C) 空欄 □ にはどんな言葉を補ったらよいか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。
1 全体 2 真実 3 集合 4 実体 5 一般
- (D) 〓 線部(2)について。その説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。
1 肉眼と比べて視野の限られた映像。
2 一部が全体を象徴する映像。
3 実像の全体を縮小した映像。
4 実像の一部を切り取った映像。
5 実像に限りなく近い映像。

(E) 線部(3)について。その説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 主語、述語といった構文の中に隠されている空白。
- 2 私たちの言葉にならない心が入り込むことのできる隙間。
- 3 論理では満たされることのない大衆の心の中の空虚や空隙。
- 4 大衆に向かって放り出されている難解なカットやセリフの間。
- 5 語られることなく省かれる私たちの心が抱える空虚。

(F) 線部(4)について。その説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 映画製作者の独白や思いは、省略されることで言葉にできない余韻を生む。
 - 2 映画が時間を省略するのは、論理で理解しようとする観客を断念させるためである。
 - 3 時間とともに省略されるのは、セリフに込められている言葉にならない思いである。
 - 4 ショットの切り替えは、観客の思いを一瞬たりとも立ち止まらせないために行われる。
 - 5 一瞬で場所などが切り替わる映像では、省略された時間に生ずる人びとの思いも省かれる。
- (G) 左記各項のうち、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

- イ 映像は物理学的な操作によって実像とはまったく異なる像に変換されている。
- ロ 映像はつねに一つの統合された全体として分割不可能なものである。
- ハ 観客は、セリフを含めて登場人物を知覚しており、登場人物を含めて画面を知覚している。
- ニ 映像は実像に対して、常にその全体を構成するものであって一部分ではない。
- ホ 小説において作者がはたしている役割を、映画においては監督がはたしている。

三 左の文章は、道綱の母が夫である藤原兼家に養女（実は兼家の子）を引き会わせる場面を綴った一節である。これを読んで後の設問に答えよ。（解答はすべて解答用紙に書くこと）

今日めづらしき消息ありつれば、「さもぞある。いきあひては悪しからむ。いとくものせよ。」^(注1)しばしは気色見せじ。すべてありやうに従はむ」など、定めつるかひもなく、さきだたれにたれば、いふかひなくてあるほどに、とばかりありて来ぬ。「大夫はいづこに行きたりつるぞ」とあれば、とかう言ひ紛らはしてあり。日ごろも、⁽²⁾かく思ひまうけしかば、「身の心細さに、人の捨てたる子をなむ取りたる」^(注3)などものおきたれば、「いで見む。誰が子ぞ。われ今は老いにたりとて、若人求めて、われを勸当したまへるならむ」とあるに、いとをかしうなりて、「さは見せたてまつらむ。御子にしたまはむや」とものすれば、「いとよかなり。させむ。なほなほ」とあれば、われも、⁽⁴⁾とういぶかしさに、呼び出でたり。

聞きつる年よりもいと小さう、言ふかひなく幼げなり。近う呼び寄せて、「立て」とて立てたれば、丈四尺ばかりにて、髪は落ちたるにやあらむ、裾そぎたる心地して、丈に四寸ばかりぞ足らぬ。いとらうたげにて、頭つきをかしげにて、様体いとあてはかなり。見て、「あはれ、いとらうたげなめり。誰が子ぞ。なほ言へ言へ」とあれば、⁽⁶⁾恥なかめるを、さはれ、あらはしてむと思ひて、「さは、らうたしと見たまふや。聞こえてむ」と言へば、まして責めらる。「あなかしがまし。御子ぞかし」と言ふに、驚きて、「いかにいかに。いづれぞ」とあれど、⁽⁴⁾とみに言はねば、^(注5)「もし、ささのところとありと聞きしか」とあれば、「さなめり」とものするに、「いとみじきことかな。今ははふれうせにけむとこそ見しか。かうなるまで見ざりけることよ」とて、うち泣かれぬ。この子も、いかに思ふにかあらむ、うちうつぶして泣きぬたり。見る人もあはれに、昔物語のやうなれば、みな泣きぬ。単衣の袖、あまたたび引き出でつつ泣かるれば、「いとうちつけにも、ありきには、今は来じとするところに、⁽⁶⁾かくていましたること。われぬていなむ」⁽⁸⁾など、たはぶれ言ひつつ、夜更くるまで、泣きみ笑ひみして、みな寝ぬ。

(注) 1 今日めづらしき消息ありつれば——この記事が書かれた天禄三(九七二)年ごろは夫婦の関係がすでに疎遠になっていた中で、

珍しく兼家からの手紙が届いたことを記す。

2 しばしは気色見せじ——しばらくは養女のことを知られないようにしておこうの意。

3 大夫——道綱を指す。使者として養女となる娘を迎えに行つた。

4 勘当——縁を切ることの意。

5 もし、ささのところでありと聞きしか——もしかして、しかじかの所で生まれたと聞いた子かか意。

問

(A)——線部(1)の解釈として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 先頭に立っていらつしやつたので
- 2 前触れもなくいらつしやつたので
- 3 先に出て行かれてしまったので
- 4 その前に来られてしまったので
- 5 先に亡くなられてしまったので

(B)——線部(2)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 目をかけていたので
- 2 待ちわびていたの
- 3 心構えをしていたの
- 4 後込みしりこをしていたの
- 5 飽き飽きしていたの

(C)——線部(3)について。「さ」は何をさすか、左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

- 1 縁を切ること
- 2 養女にすること
- 3 取り決めること
- 4 会わせること
- 5 成り行きに従うこと

(D) 線部(4)の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 先ほどから気になっていたので
- 2 すぐに疑問点を解決したいので
- 3 もう何を言ってもしかたがないので
- 4 全く受け答えができなくなったので
- 5 事実を正して早く気を晴らしたいので

(E) 線部(5)の現代語訳を五字以内で記せ。

(F) 線部(6)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 全く欠点が見当たらないようなので
- 2 少し恥ずかしがっているようなので
- 3 恥ずかしがりなどしないようなので
- 4 気後れしぼんやりしているようなので
- 5 他の子供にひけをとらないようなので

(G) 線部(7)の解釈として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 髪を切り出家でもして、隠遁してしまったのだろう。
- 2 もはやお亡くなりになり、葬られてしまったのだろう。
- 3 落ちぶれて、居所もわからなくなってしまったのだろう。
- 4 どこかをさまよううちに、忘れ去られてしまったのだろう。
- 5 どこかに追放されて、そのまま亡くなってしまったのだろう。

(H) ——— 線部(8)について。どのような内容の「たはぶれ」を言っているのか、最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

- 1 こんな煩わしい大人の世界に、汚れのない子供がいること。
- 2 思いがけない出会いに涙が出ると同時に、笑みがこぼれること。
- 3 突然の出会いであるようだが、実は運命的な出会いであること。
- 4 昔物語のように思われるのに、それがまさしく現実であること。
- 5 もう来るまいと思っていたのに、来ないわけにはいかないこと。

(I) 〓〓 線部(イ)・(ロ)はそれぞれ誰の動作・行為か。左記各項の中から最も適当なものを一つずつ選び、番号で答えよ。ただし、同じ番号を二度用いてもよい。

- 1 道綱の母
- 2 兼家
- 3 子(養女)
- 4 女房たち

(J) ——— 線部(a)・(c)の文法上の意味は何か。左記各項の中から最も適当なものを一つずつ選び、番号で答えよ。ただし、同じ番号を二度以上用いてもよい。

- 1 自発
- 2 受身
- 3 可能
- 4 尊敬
- 5 完了

(K) ~~~~~ 線部(あ)・(え)のうち、他の三つと違う意味で用いられている「ものす」を一つ選び、記号で答えよ。

【以下余白】